

平成25年度熊本市歯科保健推進協議会における検討委員会 議事録要旨

開催日時 平成26年3月25日（火） 15:00～16:15

場所 議会棟2階 議運・理事会室

出席委員7名（敬称略）

（宮本格尚、渡辺猛士、逢坂佐恵子、古川豊、西恵美、立石久美子、土屋裕子）

傍聴者1名

次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議題1 熊本市におけるフッ化物応用による歯科保健の取り組みについて

議題2 他都市のフッ化物洗口の取り組みについて

議題3 障がい児（者）への歯科口腔保健等の取り組み状況等について

議題4 その他

4 閉会

【議事進行】

《事務局》 —説明—

議題1 熊本市におけるフッ化物応用による歯科保健の取り組みについて

議題2 他都市のフッ化物洗口の取り組みについて

《宮本委員長》

只今、議題1と議題2について事務局から説明があったが、委員の皆様方からご意見ご質問等はないだろうか。

《西委員》

京都市の特別支援学級でフッ化物洗口をされているということだったが難聴学級についてはわかるが育成学級ではどのようにされているのか。

《事務局》

同じようにクラスで実施されていた。問題も特になかった。

《宮本委員長》

障がいのケースによっては、うがいができないという子もいるのか。

《西委員》

うがいそのものが嫌ということはある。やること自体に違和感があったり、初めての事できないという事はあるかもしれない。友達がやっているのを見ると少しずつできるようになる子も、中にはいると思う。

《事務局》

京都市では先程皆さんに体験していただいたものと同じ薬で実施されている。また熊本市内のモデル校3ヶ所の小学校でも特別支援学級のお子さんで希望の方については実施しており、うがいが上手にできないお子さんについてはお水でうがいの練習を実施し、上手になってからフッ化物洗口をするという形で実施している。

《宮本委員長》

昨日説明に行った豊田小学校でも同じような質問が出たが、やってすぐ効果が出るものではなく2、3年かかるので、練習から入るというのもひとつのやり方だと思う。行政に質問だが、小学校に対しては一生懸命やっているが、幼稚園、保育園では実施しているのか。

《事務局》

事業面としては新規導入の支援事業ということで1年間をめどにしていて、最初の半年間は薬剤を各区役所の保健子ども課に渡して健康教育と併せて洗口の手伝いをしていくというものである。私立幼稚園の方の事業への参加については園長会等に出向いて説明を行い、ご希望があれば参加していただきたいという旨のお話はさせていただいている。

《宮本委員長》

同じ質問を保育園連盟の古川委員と私立幼稚園協会の立石委員にご回答いただきたい。

《古川委員》

保育園では先程説明があったように毎年園長会の方で説明をさせていただいている。去年はそれよりも少し踏み込んで啓発をしていこうということで渡辺先生にも研修していただき、少しずつではあるがフッ化物洗口実施園が増えてきているのではないかと思う。保育園、幼稚園では毎日洗口を行うので、それが定着していけば子どもたちが慣れていくのではないかと思う。

《立石委員》

私立幼稚園ではこの数値がかなり低くて残念に思っているが、以前お話した通り園長会等でもなかなか理解が得られていないという結果が表れているのではないだろうか。私たちの園で始めた時は小学校で全く行われていない時期だったが、今年実施が8年目になった。ようやく小学校でも力を入れて始められているところも出てきたので小学校で普及が広まっていくと、そちらから保護者のニーズが出てきて声がかかるようになり園長先生方も少しずつ考えていかれるのではないかと思っている。

《宮本委員長》

是非そうなればと思う。もう一つ行政に尋ねたいのは、岡山と京都を見てこられて、そこでのフッ素は製剤だったのか試薬だったのか。

《事務局》

京都市では熊本市と同じ製剤を使用されている。岡山市では製剤ではなく試薬で実施されている。先日岡山市と話をする機会があり、将来的に試薬から製剤に変えられるかとお尋ねしたが、そのまま試薬を使われるということだった。

《宮本委員長》

先日、佐賀の先生のお話を聞いたが、佐賀は全て試薬でされている。製剤に変えるとコストが10倍になり予算も大きくなる。製剤を使用する行政にはフッ化物洗口を途切れさせないようにお願いしたい。

《西委員》

試薬と製剤の違いは何か。

《渡辺委員》

同じものである。ミラノールとオラブリスという製剤が一般的に流通している。どちらもフッ化ナトリウムが成分で、先程体験していただいたミラノールは香りがついている。コストについてもやはり10倍位はする。どの薬も元々は試薬であり、学校薬剤師の方がいれば試薬をお薬として使うこともできると判断している。今は小さな分包で一人分がヶ月分位入っているものを使っているが、学校での洗口が進むに連れて大きな容量の薬剤が必要になってくるので、メーカーの方に学校向けの製品を作ったらどうかという話をしたら、大人数用の製品を販売するとの情報を得た。

《土屋委員》

資料の1ページに学校関係者及び保護者等への説明会とあるが、校長会、養護教諭の説明会は年1回しかできないだろうとは思いますが、保護者等への説明会というのはどういった形で実施されたのかお聞きしたい。

《事務局》

保護者への説明会については学校の方から各区役所か健康づくり推進課に希望の連絡を頂いて説明にうかがったという事になるが、宮本会長に来ていただきフッ化物の安全性と有効性に加えてモデル事業についてのご説明をしていただいた。また実施方法について健康づくり推進課と区役所が伺って説明するという状況である。

《土屋委員》

モデル校になる学校の保護者ということか。

《事務局》

モデル校になるということではなく、お話を聞いてみたいと思われた学校の保護者という事である。

《土屋委員》

佐賀の岩瀬先生のお話を聞いて、学校としては希望しないが保護者の方に何らかの機会を捉えて話を聞いてもらうということも、これから必要ではないかと思う。先程幼稚園の先生が幼稚園は小学校から降りてくるのを期待しているということと言われたが、小学校の方でもおそらく幼稚園・保育園が全員実施されると、保護者の方からなぜ小学校ではないのかというようなご意見が出てくるのではないかと思う。お互いに期待しあっている方向を目指していきたいと考えていると思うが、果たして保護者の方はフッ化物洗口というものがある事や、これを実施したらむし歯にかかる確率が大きく下がるという情報をどれだけ知っているのかと思う。

《事務局》

保護者への情報の発信について、昨年は PTA の方に文書でモデル事業のスタートを全校に通知したり、各区役所で様々な健康に関する催事等で啓発を図っている。保護者の方からも、うちの小学校ではどうなっているのかという声も上がっているところである。本市でも啓発に取り組んでいるので、新年度においては保護者はもとより多くの市民に知っていただく取り組みを進めていきたいと考えている。

《宮本会長》

行政には粘り強く取り組んでいただきながら、歯科医師会でも別のアプローチをやりたいと思う。

《事務局》

現在モデル校 3 校でやっており、南区と西区にはモデル校が無いという状況だが、昨年保健子ども課、健康教育課で課長会議を立ち上げ情報共有も行き、南区、西区においてもスタートできるように働きかけをしている。

《宮本委員》

県でも知事が先頭に立ってやっていて、2015 年中には 7 割を目指すということを公言されている。周辺地域が進んでいくと市や教育委員会の方も動かざるを得ないということもあるので、加速できるように御協力をお願いしたいと思う。

《事務局》 —説明—

議題 3 障がい児（者）への歯科口腔保健等の取り組み状況について

《西委員》

「最初にどこで診療を受けるか」、「先生との相性という部分」で挫折するということも多い。学校では検診があったが特に通所施設では検診がない。そこで歯科医師に施設に来ていただいて診てもらい、その後施設利用者が同じ歯科医院に通い治療を受け、継続して口腔ケアに通っているという方もいらっしゃる。病院に行って白衣や機械を見て帰ってしまい、そのあとの診療につながらない方もいらっしゃる。その前の段階での意思の疎通や信頼関係が結べるように医師側が話を聞こうという姿勢があると助かるし、障がいがあるというだけで無理というのではなく、そういった形をとっていただくと有り難いと思う。

《渡辺委員》

話を聞くというのは病院に来ていただいて話を聞くということか、それとも歯科医の方からどこかへ行って皆さんのお話を聞くということか。

《西委員》

どちらでもかまわない。本当に困った方は電話されたり、引き受けていただけるか病院に行ったりされると思っている。今通っていらっしゃるところが作業所など多岐に渡っていて、学校を卒業したら全てが親の責任になってしまうのでボランティアで巡回の相談等を

やっただけだと思ふ。このお医者さんならかかってもいいと思へば、通えるかもしれない。そうすればむし歯では無いときにも行けるようになるのではないか。

《渡辺委員》

施設や授産所からも、もしオーダーがあれば歯科医師会の方に連絡していただければ協力していただけるのではないかと思ふ。それぞれケースバイケースなので、まずはご相談していただきたいし、何度か練習だけでもという形で取り組んでいければいいと思ふ。まずはむし歯にならないようにする事が大事なのでフッ化物洗口の取り組みもしていけないといけないうしそれについての情報などの説明会についてもご要望があれば歯科医師会の方に相談していただきたい。

《西委員》

できればボランティアでお願いしたい。フッ化物洗口に関しても大人もした方が良くということだったので、そこから始めてもいいのではないかと思ふ。研修なども企画していきたい。

《渡辺委員》

ご相談していただければうかがうので連絡していただきたい。

《宮本委員》

歯科医師会でもこの4月からそういった方面の特別委員会を立ち上げているので言っただけであれば協力できると思ふ。

治療になるとなかなか大変なので予防の段階が重要だと思ふ。先日の研修会の講師だった逢坂先生も何もなくても来ていただいて予防しているとおっしゃっていた。そういった取り組みをしていくと慣れてくるということもあるし予防にもなるので、そういった話もオーダーがあればできるので声をかけていただきたい。

閉会